

庵原座談会新聞

第2回 R2.10.19



第2回座談会にご参加いただきありがとうございます！内容の濃い話し合いができたと思います！
次回は年内最後の話し合いです。有意義な時間にしていましょ！

話し合いの内容

1班 木村

「スポーツをする競技者がいない」「子ども達もスポーツ離れ」「若者がいない」などといった課題が出された。その中でも特に、子ども達にとってもスポーツが身近なものとして捉えることの整備が喫緊な課題と思われる。現代の情報社会の中で、外に出て遊ぶ子ども達も少なくなくなってしまった。このような状況から抜け出すためには、大学生のように若い人たちが活動していくことが有効的だという意見が出た。そのため例えば、私たち学生が小学生や中学生を対象としたスポーツ教室やイベントなどなどを企画することの提案が考えられた。

2班 竹端

スポーツを展開する以前に、その基盤となる庵原地区そのものの課題から話がスタートした。庵原地区に住みたいと考えている方は多くいるのだが、調整区域ということもあって、人口の推移に大きな変化は見られない現状にある。そこでまず、地区が抱える人口課題を解決することが必要との意見が出た。次に、地域資源の活かす方に向け話が続いた。主にトレセンの利用についての話であった。施設名称からプロの選手しか利用できないといったイメージが強いことが明らかとなった。地域に根付く施設を目指すトレセンと地域を創る住民とでズレがあると、双方のニーズが満足なものにならない。そのため、住民の認識を改めるための、プロモーション策が必要だと感じた。

3班 植松

まず、スポーツの捉え方について考えた。学生たちのように、競技スポーツとしてではなく、健康の維持増進やコミュニティ作りとして行うといった捉え方をする人が多いことが分かった。庵原球場やトレセンは、学生の大大会やプロの練習場などの利用がほとんどであり、地元の人たちは費用等の面から利用しにくいといった意見が出た。それを踏まえ、もっと地域の実情に沿った使い方ができるように具体的には、球場やトレセンを庵原地区住民限定の無料開放日を作ること、庵原地区住民限定のスポーツイベントを企画することなどが挙げられた。そして、子どもたちや親子で参加できるものにするのと、参加者へ特典などを用意することなど、より多くの方々に楽しく参加していただく工夫を考案することが引き続きの課題となった。

4班 岸山

スポーツの課題について「交通手段が車しかない」「土地の整備をしてほしい」「スポーツを楽しみたい人と本気でやりたい人と分かれている」などの意見が主に出た。解決策として、車以外の交通手段を増やすことや家に籠りがちな高齢者を外に出す工夫が必要であること、また、公園の整備や育成会を再開するという意見が出され、リーダーとして地域を引っ張っていく人材の発掘・養成が喫緊の課題として挙げられた。

また、ウォーキングコースやサイクリングコースが欲しいという意見も出され、そのコース提案を具体化してみたいと思われた。

《第3回について》

日時：R2.11.30（月）
18：30～

場所：庵原生涯学習交流館
テーマ：地区ごとの要望について

5班 山口・神原

大きく分けて二つ意見が出た。一つはトレセンについて、もう一つは情報発信の方法についてであった。トレセンについては、交通の便が悪い、利用できるのを知らなかったなどの意見が出された。また、トレセンと聞くと、一般の人が使いたいイメージがあり、「女子」という呼称が、住民にとっては親しみやすいのではないかという意見が出た。情報発信の方法については、インターネットに頼りすぎている、地域への情報発信が足りていないなどの意見が出された。さらに今後は、情報発信の方法について変化が求められるようにも感じたので、その具体策について検討を進めていきたい。



座談会第2回の様子